令和３年度第１回千代田区生物多様性推進会議

（開催要領）

1.　開催日時　令和４年３月 30 日（水）15 時 00 分～17 時 00 分

2.　開催場所・方法　千代田区役所４階　会議室 AB　※WEB 会議との併用

3.　委員（12 名）

亀山　章　　東京農工大学　名誉教授
加藤　和弘　　放送大学　教授
須田　真一　　東京大学総合研究博物館　研究事業協力者
城　　千聡　　三井住友海上火災保険株式会社　総務部（リモートにて参加）
竹内　和也　　一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会　専務理事
中村　裕子　　千代田区立麹町小学校長
大井　匡之　　公募区民（在住）
坂口　次郎　　公募区民（在住）
積田　孝一　　公募区民（在住）
二戸　治　　環境省自然環境局　皇居外苑管理事務所　次長（リモートにて参加）
青山　一彦　　東京都　環境局自然環境部　緑施策推進担当課長（リモートにて参加）
印出井　一美　千代田区　環境まちづくり部長

4.　事務局（５名）

・千代田区環境政策課
笛木環境政策課長、松下企画調査係長、大坪事業推進担当係長、只野公害指導係長、落合エネルギー対策係長

（議事次第）

1.　委嘱状交付
2.　開会
- 会議の公開・非公開及び議事録の取扱いについて
- 委員紹介
- 座長・副座長の選出

3.　議題

（１）令和３年度の区の生物多様性に関する主な取組みについて

①区民参加型モニタリング調査（生きものさがし 2021）
②令和３年度ちよだ生物多様性大賞
③ちよだ生物多様性推進プラン・事業計画の進捗状況
（２）ちよだ生物多様性推進プランの検証について
4. 閉会

（配布資料）

- 次第
- 委員名簿
- （資料１）区民参加型モニタリング調査（生きものさがし 2021）実施報告書
- （資料２-１）令和３年度ちよだ生物多様性大賞の状況
- （資料２-２）ちよだ生物多様性大賞　受賞者活動概要
- （資料３）ちよだ生物多様性推進プラン・事業計画
- （資料４-１）推進プラン見直しの経緯・要点・スケジュール
- （資料４-２）ちよだ生物多様性推進プランの検証について
- （資料４-２別紙）区民向けアンケート設問内容（案）
- （資料４-３）令和４年度の生物モニタリング調査計画（案）

（議事要旨）

1. 開会
   - 印出井部長から挨拶
   - 委員の自己紹介
   - 亀山座長を委員互選、座長指名と委員了承で加藤副座長を選出

2. 議事
   （１）令和３年度の区の生物多様性に関する主な取組みについて
   ①区民参加型モニタリング調査（生きものさがし 2021）
   - 事務局より資料１の説明

＜大井委員＞
モニタリング調査参加者の人数について、どのように評価しているか。

＜大坪係長＞
区立小学校（８校）には夏休みの教材として、「地球環境学習チャレンジ集」を

配布している。その結果、全参加者のうち 133 名が小学校を経由して参加してくれた。また、未就学児を中心とした「エコにゃレンジャー」には 27 名が参加してくれた。
評価としては、267 名の参加は過去 5 年間において最多ではあるが、教材を配布した学校の児童数を考えればもう少し多くの参加があってもよいのではないかと思う。年齢別結果を見ると、区内在勤者や大学生からの協力が得られれば、さらなる参加者の増加が見込める。

＜亀山座長＞
調査と同時に観察会などのイベントやガイダンスは開催していないのか。

＜大坪係長＞
事業に直接関係した観察会はコロナの影響もあって、開催できていない。
2019 年までは、区内の子どもたちを対象としたセミの羽化観察会をやっていた。

＜亀山座長＞
一緒に調査をやっていくと、参加者の裾野も広がる。

＜須田委員＞
市民参加型モニタリング調査の目的には、生物情報の収集と生物多様性についての普及啓発効果がある。資料 1 の表 3 を見ると、情報が寄せられた種として疑わしいものも含まれている。集積した情報が無駄にならないためにも、写真を集めてアーカイブできるようなシステムを構築するとよいのではないか。更に、掲載者の詳細な情報を伏せて、インターネットなどにアップすることで、それを見た参加者も増えるのではないか。東京都に生息する生物の基礎情報としても役立つ。

＜加藤副座長＞
昨年より参加者が 100 人近く増えているようだが、小学校への資料配布や未就学児への参加を促す活動はいつから行われているのか。

＜大坪係長＞
小学校への配布は結構前から行っている。2018 年まで 2，4，6 年生を対象に資料を配布していたが、6 年生にはレベルが合わないとの意見が寄せられたことから対象を 2，4 年生のみに絞ったため、2019，2020 年には参加者が減少している。2021 年は内容を見直し 6 年生への配布も再開したので参加者が増加した。

「エコにゃレンジャー」は 2020 年から開始した。人数は少ないが熱意は強い。1 人でレポートを 10 枚出すような児童もいた。

＜加藤副座長＞
普及啓発の観点からみると、未就学児など低年齢の子どもたちが参加してくれるのはよいことである。ぜひこの流れを続けていただきたい。

＜積田委員＞
毎日皇居周辺を歩いていると 1 年でも、見られる種の変化を感じる。なぜこのような変化が起こるのか考える必要がある。モニタリング調査で報告された種の中には、不確かなものがあるように感じる。発見時の写真があれば、専門家の目でも判断できるので、より正確な情報となる。写真の収集は有効である。

＜坂口委員＞
毎年の結果はどのように公表、周知しているのか。千代田区内全 8 校の生徒数を考えると、提出数がより増えるといい。また、この結果を今後どのように活かそうとしているのか。自然度を上げるなどゴールがあるのか。

＜大坪係長＞
結果は今年の参加者募集のリーフレットとともに昨年の結果も同時に配布している。ホームページにも掲載しているので、誰でもアクセス可能である。結果の活用に関しては明確な回答は用意できていない。今後検討していく。

② 令和 3 年度ちよだ生物多様性大賞
・事務局より資料 2-1、2-2 の説明
＜亀山座長＞
大賞の表彰式はいつ行われたのか。

＜笛木課長＞
先週（3 月 23 日（水））行われた。区長から賞状と記念品を授与した。大賞を受賞した玉井さんは麹町小学校 2 年生である。ご両親が同席した。

＜加藤副座長＞
過去の応募件数を見て参加者数の伸び悩みが課題である。未就学児や小学校への資料配布範囲の拡大、中学生以上や企業への働き掛けも検討してみてはどうか。

＜亀山座長＞
毎年の入賞者の情報はどのように公表されているのか。

＜笛木課長＞
リーフレットや広報紙・ホームページを使って公表している。応募件数の少なさについてはPR方法を検討していく。

＜印出井部長＞
応募件数は少ないが、受賞者の水準は高く内容も濃い。エントリーすることへの敷居が高いのではないか。スマホを活用した情報の集め方の活用を含め、企業や大学のゼミなどの単位で参加してもらえるよう工夫していく。

＜竹内委員＞
千代田区内で環境に関する大賞は、生物多様性大賞以外にもあるのか。

＜印出井部長＞
企業を対象とした、環境への配慮行動の評価などの大賞はある。共通する点があるため、整理、周知しながらその中で生物多様性に特化した工夫などがあれば、こちらへのエントリーを促すなどの工夫はできる。

＜竹内委員＞
千代田区として環境への取組みがあればまとめたらよいのではないか。最近は小学生でもSDGsについても理解している。例えばSDGs大賞の生物多様性部門というように、他のものとまとめてアピールすることで、盛り上がりがでるのではないか。

③　ちよだ生物多様性推進プラン・事業計画の進捗状況
・事務局より資料3の説明
＜亀山座長＞
時間の都合上、要点のみ説明したが事業計画をしっかり見ることがこの会議の大事な役割である。問題点があればそこだけ話せないか。

＜笛木課長＞
全体的に「検討」の文字が目に付く。各課が分担して様々な事業を行っている。事業の最初と最後に確認して、達成できなかった目標は来年度に回るようにな

っている。今後は意識を高めていきたい。

＜亀山座長＞
議題（２）の「ちよだ生物多様性推進プランの検証について」と併せて意見を募ったほうがよい。

（２）ちよだ生物多様性推進プランの検証について
・事務局、受託者より資料４の説明
＜亀山座長＞
全体のスケジュールはどうなっているのか。今はどの段階であり、今後何を目指すのか。

＜笛木課長＞
今後、モニタリング調査を春、夏、秋、冬まで行う。令和４年度の９～10 月頃に行う中間まとめと第 1 回推進会議で調査結果を報告した上でご意見をいただきたい。その意見を踏まえて秋、冬の調査を行い、12～1 月に第 2 回目の報告をし、そこで都や国の動向をまとめて、令和４年度３月に素案をとりまとめる。

＜印出井部長＞
今日は、一年を通してモニタリング調査を行う地点、区民向けのアンケートについての意見を募り、今後の具体的な調査に生かしたい。

＜亀山座長＞
更なる調査の追加項目や、重点的に見ておくべき点はあるか。また、区民向けアンケートについて気づくことはあるか。

＜笛木課長＞
調査地点は 10 年前（平成 23 年度）に行った際と同じ 14 地点に設定している。その中には民間の施設も含まれているが、来年度の調査を行うことについては調査地点へ了解が得られているわけではない。追加の調査地点、大手町 JA ビルもまだ了解が得られていないため、あくまで案としての提示である。

＜加藤副座長＞
生物多様性推進プラン事業計画との関連を見ながら意見を述べたい。
生物モニタリング調査計画と区民を対象としたアンケートのみでは、プランのうちのいくつかは効果を検証することができない。例えば、推進プラン・事業計

画⑤に街路樹の整備についての記述がある。整備の対象となった地点については、整備前後の生物多様性がどのように変化したのかの検証も必要である。街路樹は整備されることで、生物の移動路、ネットワークとして機能するようになる。これを機に、通常は調査の対象にならないような小さな公園や、生物多様性を維持する上では焦点が当てられないような街路樹も都市の中でどのような役割を果たしているのか検証してみてはどうか。

・推進プラン・事業計画⑥について

ビオトープに関しては、単純な多様性だけでなく人々にどう利用されているのかという観点も重要である。ビオトープは生物の生息空間であると同時に、人々が生き物とふれあう機会を提供する場としての役割を果たしていることが望ましいと考える。その役割を果たしているかどうかの確認項目があってもよいのではないか。

・事業計画 5 について

「調整」や「検討」の文字が目立つ。アンケートについて千代田区のどういった場所が生物多様性の拠点として重要なのかを問う項目がない。皇居や北の丸公園だけでなく、屋上やビオトープなどの解答も得られるかもしれない。「生物多様性が～」という聞き方をした場合と、「身近に生物を見ることができる～」という聞き方をした場合で解答が異なる可能性がある。区民が身近な場所で生き物と触れあう機会についてどう思っているかについての設問はアンケートに含まれていてもよい。それにより、計画 5 の方向性や課題が固まってくるのではないか。アンケートをする上での注意点は、回答した人の考えしかわからないことである。区民の意向ではなく、区民の中で生物多様性に関心がある人の考えを調査していることになる。アンケートの他に意識を把握できる仕組みがあったほうがよい。区が実施している環境関係のイベントの参加状況や生物多様性に限らず区に対して要望、要求が寄せられてくることがあると思うが、その中で生物多様性についてどのように触れられているかもデータとして使えるかもしれない。「生物多様性のアンケート」という枠にとらわれずに区民の意見を探る方法も検討願いたい。

＜印出井部長＞

前段の公園・街路樹についての事業計画に関して、区の事業として行うと区立公園や区道が対象になるが、指摘のような「皇居を中心としたエコロジカルネットワークの実態」を把握するには他の関係者や既往の調査結果を使う必要がある。さらにスポット的な補足ができるかどうか検討する。アンケートや調査ポイント等についてはご意見を参考にして、全体の調査経費の中で改善できそうなところは改善していく。

＜亀山座長＞
都道の街路樹については調査が行われているので、千代田区内のデータはある。国道についてのデータもあるので、合わせれば千代田区内の街路樹全ての情報がわかるはずである。キジバトやカラスが営巣しているなど、様々な生き物が利用していると思う。

＜積田委員＞
竹橋の交差点には街路樹としてニセアカシアが植樹されている。時期によりニセアカシアの果実を餌にするヒヨドリがたくさん集まり糞など落下物も多い。信号待ち近くに植える街路樹選定には、多方面の配慮が必要である。

＜大井委員＞
調査地点が将来像に向かってどのように向かっているのか、という視点で調査したらよいのではないか。また、種の多様性だけでなく、生態系の多様性についての視点もあってよいのではないか。

＜亀山座長＞
生態系の多様性については、まず生態系をどう捉えるかが難しい。簡便な方法で指標化されるとよい。

＜中村委員＞
子どもたちの参加について学校には夏休みに行われるイベントの紹介がたくさんあるため、その中での差別化や興味のある子をどのように啓蒙するかが重要である。今は実施がなかなか難しいが自然観察会などが行われて、参加することによって関心が高まっていく。また、モニタリング調査も子どもたちの遊び場の様子などを入れ込んだリーフレットにすると、身近な公園にどんな生きものがいるのかがわかる。近場の公園など子どもたちで気軽に観察できることを配慮するとよいのではないか。リーフレットは学区など地域ごとの狭い区分でピンポイントに絞って紹介する内容であると興味が沸くと考える。

＜坂口委員＞
全般的にどこにどんな生物がいるのかの調査もあるが、ある生物がいる範囲を広げてネットワークを繋げていきたいのならば、どこを調査することでネットワークされていくのかを考える方法もある。また、いつまでにどんな姿を誰に見せたいのか、例えば 2025 年に将来子どもたちに 5 、10 年後に見せたい千代田区

の生物多様性の姿など、もう 1 歩踏み込んだコンセプトの下で議論してもよいのではないか。その文言を使ってイベント等の協力者を募ることもできるのではないか。

＜印出井部長＞
来年度の推進会議では、2030 年や 2050 年に向けた中、長期的なビジョンやプログラムについて議論をしていきたい。深掘りした調査については、今回は前駆的な調査ポイントとして提案しつつ、生物多様性について深掘りした既往の調査とも連携して進めていく。

＜亀山座長＞
来年度は早めに議論し、課題に反映していただきい。

＜二戸委員＞
今後、生物多様性を千代田区で進めて行くには、行政だけで進めていくことは難しい。企業や団体にも協力してもらう必要があり、地域住民の方々も含め、みんなで面白く進めていかなければならない。生物多様性や環境保全において、面白い活動をしている団体や方々の人材発掘や一緒に取り組んでいけるようなプレイヤー探しもやっていくとよい。さらに見つけた人材同士のネットワークづくりを行うことで企業や団体、地域住民が繋がり、千代田区全体で生物多様性に取り組んでいけるのではないか。

＜青山委員＞
連携については、同感である。行政だけでできることには限りがある上、千代田区は大学も企業も多いので様々な知見が利活用できる。また、生物多様性の課題解決のためには行動変容、社会変化は必要であるが、都の地域戦略をつくっていく中でも生物多様性の理解度や認知度が低いことが課題となっており、「目標の設定」を審議会に提案している。認知度の低さに加え、行動に移らないと生物多様性や地球規模の保全には繋がらないため、自分の行動がどのように保全につながるのか普及啓発として伝えていくことが必要と考えて検討している。千代田区も意識して検討していただければと思っている。

<亀山座長>
東京都で検討している途中のことを知らせてほしい。

<城委員>

議題（１）①②では活発に意見が出ていたが、昨年開催の会議（書面開催）でも出ていた意見が多かった。対する回答も「検討」が多く、積み上げができていないと感じた。今日出た意見を活かして次年度は早めに会議を開催していただきたい。

＜笛木課長＞

来年度、「検討」ばかりで無くプランを見直す中でできることできないことがあるが、調査してから秋ごろに再度会議を開きたい。

以上